

黒部で第九を歌う会 第10回記念コンサート

命
の
一
曲
。

MOZART

REQUIEM

「モーツアルトのレクイエム」
コンサート

2010.11.28 sun 開場 13:30 開演 14:00

| 会 場 | 黒都市国際文化センター
コラーレ (カーターホール)

| 全席自由 | ¥3,000 (当日¥3,500)
公演中の一時保育(無料)をご希望の方は
3日前までご連絡ください。

曲 目 W.A.モーツアルト：
『交響曲第40番 ト短調 K.550』
『レクイエム ニ短調 K.626』

指 挥 横島 勝人

管弦楽 富山シティフィルハーモニー管弦楽団
ソリスト 岩井 理花、日野 妙果、内山 信吾、谷 友博
合唱 黒部で第九を歌う会「モツレク合唱団」

MOZART REQUIEM

「モーツァルトのレクイエム」コンサート

モーツァルトが、人生最後に手がけたのは
最愛の妻を失ったある男の絶望と祈り「レクイエム」。
しかし、モーツァルトはこの曲を作り終えることなく、この世を去った。
長い年月を経て、レクイエムはいつしかモーツァルトへの祈りとして、
世界中で歌われるようになっている。

W.A.モーツァルト：レクイエム ニ短調 K.626

『レクイエム』はヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの未完の遺作。(1791年12月5日没)

「キリエ」の壮大なフーガ、最後の審判の恐怖を鮮烈に表した「ディエス・イレ」、痛切なまでの美しさを感じさせる「ラクリモーサ」など、モーツァルトの最後の作品として、現在まで広く演奏されている。

ウィーン時代に天才の名をほしいままにした人気にも陰りが出始め、強力な経済的援助者だった皇帝ヨーゼフ2世が亡くなり将来的の不安を強く感じ始めた頃、病が静かに進行していた。着実に近づいてくる「死」を予感する最中、モーツァルトは“灰色の服を着た見知らぬ男”から『レクイエム』の作曲の依頼を受けた。依頼者はシュトゥパハ伯爵といわれ、匿名で作品を注文してきたことから様々なミステリーじみた憶測も生まれた。病床で力尽きる前日まで作曲は続けられたが、完成されていたのは1曲目「イントロイトゥス」だけで、「キリエ」「セクエンツィア」「オッフェルトリウム」は、歌唱部とバス、器楽部は主要音形のみ書かれ、最後は「ラクリモーサ」の8小節で息絶えた。

妻のコンスタンツェによると、モーツァルトは「自分のために『レクイエム』を書いている」と語ったという。経済的に苦しい状況であったコンスタンツェは、この未完作品を依頼者に納めるために、モーツァルトの弟子ジェスマイヤーに補筆を依頼。

悲痛極まりない前奏、トロンボーンと弦の悲しみの叫びに、合唱がバスから歌い始める『レクイエム』。自身の「死」をじっと見つめながら作曲を続けなければならないモーツァルトの慟哭がきこえるようだ。



岩井 理花 (ソプラノ) 日野 妙果 (メゾ・ソプラノ)



指揮
横島 勝人



内山 信吾 (テノール)



谷 友博 (バリトン)

黒部で第九を歌う会

■お問い合わせ 黒部で第九を歌う会事務局 富山県黒部市中新398 (株式会社ミツイ内) Tel.0765-54-1339 Fax.0765-52-0087 E-mail daiku@ni-po.ne.jp
黒部市国際文化センター コラーレ 富山県黒部市三日市20番地 Tel.0765-57-1201 Fax.0765-57-1207

[プレイガイド] コラーレ/黒部メルシー/魚津サンプラザ/入善コスモホール/アーツナビ(新川文化ホール・富山県民会館・富山県教育文化会館・富山県高岡文化ホール)